

# 能作におけるデザイン経営 —伝統産業から生まれるイノベーション—

株式会社能作 代表取締役社長 能作千春

## はじめに

当社は1916年、富山県高岡市にて、400余年の歴史をもつ高岡銅器（経済産業大臣指定伝統的工芸品）の伝統技術をもとに、仏具を製造する鋳物工場として創業しました。創業当時は仏具に加え、茶道具や花器を中心として製造していましたが、ライフスタイルの変化を捉え、お客様の声に応えるものづくりを追求し、2003年から自社製品の開発に着手しました。技術と素材を最大限に生かすデザインを探索し、インテリア用品やテーブルウェアなど、現代のライフスタイルに合った製品を展開しています。

また、当社は長年にわたり受け継がれてきた高岡銅器の伝統や職人技術、その背景にある想いを伝える産業観光事業に取り組んでいます。職人技術を間近でご覧いただける工場見学や、職人と同じ技法でものづくりが体験できる鋳物製作体験、さらには錫の器を体感できるカフェを併設した本社工場には、年間に13万を超える来場者が訪れます。[図2]

ものづくり・ことづくりを探索し、「人と、地域と、能作」をスローガンに、永きにわたり培われた伝統

●図2 能作本社工場



©車田保

を継承しながら、時代を反映した感性を融合させ、既成概念にとらわれず積極果敢にチャレンジする姿勢で、鋳物産業に新たな轍を描き続けています。

当社は、令和7年度「知財功労賞（デザイン経営企業）」を受賞しました。本稿では、伝統を継承しながらデザインと技術力で取り組んできた製品開発や産業観光事業を中心に、当社のデザイン経営の事例を紹介します。

●図1 ろくろ職人による伝統花器の仕上げ



## 1. 顧客の声をいかしたものづくり

1984年、現・代表取締役会長である能作克治が入社し、18年間職人として技術を磨く中で、自社の技術を生かした自社製品の開発を志すようになり、自社ブランド商品の開発に乗り出します。

2001年に東京・原宿で開催した展示会で、素地の美しさを生かした真鍮製のベルが注目を集め、2002年には初の自社ブランド「能作」製品の第一号となるベルのセレクトショップでの取り扱いが始まりました。